

ス コ ー プ

リサイクル粉せっけん活動を支える クリーンな太陽光発電

山崎 多代里



共同発電所
準備会」を
立ち上げ
た。東北芸
術工科大学
三浦研究室

リサイクルボランティア活動の念願の拠点として一九九三年四月、山形市八森地区内に工房「知音」を建設した。主婦の身近な実践を通して環境改善の輪を広げようと使用済み植物性食用油をリサイクルして粉せっけんにする活動を中心に、リサイクルせつけん利用の普及、製造の指導や助言、国内外との交流などを重ねている。年ごとに会員が増え、運動の輪は予想以上の速さで広がっている。

リサイクル粉せっけん運動に続くステップとして次世代エネルギー利用にも取り組んだ。国内で実践している自治体や市民団体、ドイツのバイオマス促進団体「カルメン」など、教材はたくさんあり、自分たちが出来る事を見つけてのはたやすかった。「知音」のスタートから七年経った二〇〇〇年十一月、「知音」のリサイクル活動をクリーンエネルギー面から支える発電所の設立を目指すことにし、二〇

の協力を得て、太陽光発電に関する論文を聞く会」を開催したり、県内のデータ提供シンポジウムを開催したり、学習を続けた。

日照の少ない雪国でも周りの雪が反射しパネルが発電する事や、雨の日でも真つ暗でない限り発電する事なども分かってきた。「知音」の屋根は将来のパネル設置を想定してあらかじめ集光に理想的な角度にしてあった。呼び掛けを続けるうち太陽光発電への賛同者も増え始めた。導入システムは四・三八kW/hの発電量（一般家庭は三kW/h）を想定した。そして、このシステム導入に必要な資金は約六百万円である事が分かった。

個人住宅で太陽光発電システムを導入するのではなく、多くの人々が工房「知音」の活動を支えており、その活動に必要な発電ということ、正式名称を「夢いきいき共同発電所」とすることにした。こうすれば、新エネルギー財団（NEF）から資金補助を受けられることができる。そして、NEFから総工費の二分の一の補助金が出ることになった。この決定を受けて自己資金づくりが始まった。補助金を申請する段階で必要な自己資金全額を準備する制度になっているため、みんなが真剣に取り組んだ。一口一百万円で多

くの人々に募金を呼び掛けることにした。最終的な締め切りを二〇〇一年三月とした。そして、百二人の募金で目標額をほぼ達成できた。その後も賛同者があり現在は百十人になっている。発電所設置賛同者や「知音」会員三百人が目標に向かって気持ちを一つにして努力した結果と考えている。

二〇〇一年十一月にパネル取り付け工事を行った。とても寒い日だった。会員が配線をつないだり、モジュールを持ちたりして、発電の実感をかみしめた。十二月には東北電力との間で一般電気買電契約を締結、二〇〇二年二月に動力買電契約の締結が終了し、関東地方以北では初の共同発電所が稼働を始めた。よく、設備投資して、元がとれる？という質問を受けるが、現在のところ使用電気量（東北電力から買って使う電気の量）より販売する電気量の方が多い状態になっている。その後も太陽光発電のシンポジウムや学習会などを開催しているが、多くの参加者を得ている。

個人では出来ない事も、みんなが力を合わせれば出来る。これからは個人で導入する人にデータを提供したり、相談にのったりして、環境負荷を少しでも減らす活動を続けていきたい。

（山形市八森、工房「知音」代表）